

JTU-HYOGO

兵庫高等学校教職員組合
日本教職員組合(日教組)

兵高教新聞

裏面紹介

◇ 第96回兵庫県マナー神戸中央大会

◇ 人権教育ひょうご総会・学習会案内 他

神戸市中央区中山手通 4-10-5 神戸市教育会館内 TEL078-261-0829 FAX078-261-1094 E-mail:hyokokyo@pearl.ocn.ne.jp

発行人：西村恭介 編集：兵高教書記局

勤務条件等の基本要求交渉

4月24日14時15分より、ひょうご女性交流館にて第1回対県交渉(勤務条件等の基本要求交渉)が行われました。兵高教からは、西村執行委員長をはじめ本部役員および執行委員が出席、県教委からは藤原教育長以下、教育次長、各課の課長が出席し、兵高教の今年度の要求事項を伝えました。

冒頭、藤原俊平教育長より、「平素から本県教育の推進にご理解、ご協力いただいていることにお礼を申し上げたい。本年は阪神・淡路大震災から30年という節目の年である。震災の経験と教訓を伝え活かすことに『つなぐ』ことを付け加え、今の世代でしっかりと共有し、今後の世代にもつないでいくという、強い思いを込めた。今後とも、防災教育をはじめとした人権教育・道徳教育・体験教育等様々な分野でこの経験と教訓を活かしていきたい。『第4期ひょうご教育創造プラン』が2年目を迎えた。3つの基本方針と18のとりくみの方向性および実施計画に基づき、着実に各施策やとりくみを推進していく。『学校での働き方改革』については、ICTの活用や外部人材配置の積極的登用、総業務量の削減にとりくんでいる。昨年8月の中教審の答申もふまえ、このとりくみを『オールひょうご』で進めていく必要がある。教職員のみなさんが専門性を高め、指導力を発揮していくためにも、心身ともの健康の保持、働きがいのある職場づくりを、これまで以上に推進していく必要があると考えている。今年度も県教育委員会として、従来の労使慣行を尊重しながら信頼関係を大切にし、相互理解を深め、各種課題に誠意を持って対処してまいりたい」とのあいさつがありました。

これを受け、兵高教・西村委員長は「日ごろから子どもたちの豊かな学びの保障、安心・安全な学校づくり、働きやすい職場環境づくりにご尽力いただいていることに感謝したい。教職員が協力し意欲的に働ける環境が、子どもたちの学びを支える基盤であり、勤務労働条件の改善に、一層注力していただきたい。子どもたちや教職員をとりまく状況は厳しき・困難さを増している。県政の混乱は長期化し、県民の分断が深まり、学校教育にも少なからず影響が出ている。『不登校、子どもの自死が増え続けている。対症療法的な対策ではなく、根本的な学校のあり方を見直す時期に来ている』『教員不足や長時間労働も深刻化し、職場の

人間関係に起因する精神疾患による休職者も増加傾向にある。さらに、部活動の負担も若手教員を中心に問題視され、教員志望者減少の要因となっており、抜本的改革が必要。『これらの課題解決には、人権感覚を基盤に据えた職場づくりが不可欠であり、兵庫県がこれまで柱としてきた『人権』施策を一層強化していく必要がある。『県教育委員会と私たちは『より良い兵庫の教育』を創りあげていくために、これまで築いてきた健全な労使関係を維持・強化し、兵庫の教育のさらなる充実のために、力を合わせてとりくんでいきたい』と述べました。

その後岩井書記長から、今年度の勤務条件等についての要求を伝えました。概要は以下の通りです。

◆賃金・労働条件等について

- ・全職員の年収ベースでの賃金引き上げ、若年層の賃金水準のさらなる改善

- ・休暇制度等のさらなる拡充と制度の周知徹底

◆超過勤務縮減・人事評価制度について

- ・国に対する抜本的な定数改善要求

- ・思い切った業務削減や部活動のあり方の見直し等、目に見えるかたちでの「働き方改革」の推進

- ・協力・協働、助け合い支え合える職場づくり

- ・人事評価制度は「育成」に資するものとし、処遇に反映させないこと

◆職場環境整備、採用・育成について

- ・個々の教員のモチベーションを高める職場環境づくりに向けたとりくみの推進

- ・実習教員・寄宿舎指導員および校務員の計画的かつ安定的採用

◆高校教育改革・後期中等教育の保障について

- ・「県立高等学校教育改革第三次実施計画」について、当事者である生徒・保護者、地域、学校現場の声を聴き、真に子どもたちの豊かな学びに資する改革となるよう、引き続き兵高教・兵教組と丁寧な協議を行うこと

- ・希望するすべての子どもたちが高等学校で学べる体制づくりと、厳しい経済状況・家庭環境の下におかれている子どもたちの学びの保障の観点に立った施策を立案すること。

- ・定時制・多部制・通信制高校のあり方について、後期中等教育におけるセーフティネットとしての役割を果たせるよう、当事者のニーズを精緻に捉え、検討すること

◆人権教育・平和教育・インクルーシブ教育の推進について

- ・これまでに培ってきた人権教育・平和教育のとりくみの深化のため、研修および実践交流の場を充実させること

- ・子どもたちの権利条約や子ども基本法の理念をふまえた学校運営、生徒指導の体制構築を進めること

- ・地域の子どもたちが地域の学校で学べるよう、分離別学からインクルージョンへの転換をすすめること

- ・「高校における通級指導」や「外国人生徒に係る特別枠選抜」等について、課題の集約、改善、研修の充実と組織的で適切なサポートを強化すること

◆教育条件整備について

- ・「行革」の名のもとに抑制されてきた、学校配当予算の復元・拡充すること

- ・入学時等の私費負担、学年費徴収金額の適正化・軽減等、教育費の保護者負担の軽減を進めること
- ・一人一台端末の導入については、公費負担とすること など

これに対し、藤原教育長は「今回いただいた要望事項については、これまで意見交換を行った内容も踏まえ検討してまいりたい。先ほどのあいさつでも述べたとおり、従来の労使慣行を尊重し、相互の信頼関係を大切に、これまで同様お互いの理解を深めながら、誠意をもって対処していきたい」と思っているの、ご理解とご協力をお願いしたい」と回答し、この日の交渉を終えました。

兵庫高等学校教職員組合(兵高教)は、《JTU 日教組》加盟の組合で、1989年に設立しました。
※「兵庫高教組」「兵高教組」「高教組」(兵庫県高等学校教職員組合)とは、関係ありません。

第96回兵庫県メーデー神戸中央大会

=次代につなぐ平和の願い！みんなでつくろう 支え合う安心社会と確かな未来（あした）を！=

4月26日（土）10:00より、大倉山公園野球場において第96回兵庫県メーデー神戸中央大会が開催され、連合兵庫に結集する各産別より約5,000人が参加しました。

メーデー式典開会に先立ち、会場隣接の「兵庫県解放運動無名戦士の碑」への献花式を行い、連合兵庫役員・OB 多数が参列しました。また、社会的アピールとして各組織代表者によって西元町・きらら広場より会場まで結集デモ行進を行いました。

冒頭、主催者を代表して那須健連合兵庫会長があいさつに立ち、ウクライナやパレスチナ、ミャンマーなど世界各地で戦争状態が続いていることに触れ、「恒久平和の実現にむけ、不断の努力を続けよう」と訴えました。今季春闘については賃上げが引き続き進んだとし「賃金も、経済も上昇する好ステージに転換できるかの正念場である」と強調するとともに、トランプ大統領の強硬な関税政策を懸念し「関係団体と連携し、中小企業支援に繋がる賃上げ交渉の環境を整える」と決意を述べました。

来賓あいさつ・紹介の後、自治労・フード連合より現場の声の訴えがあり、最後に戦後80年の節目に戦争の悲惨さを次世代に継承することなどを盛り込んだ「メーデー宣言」および「戦後・被爆80年 次代につなぐ平和の特別決議」（右）が採択され、「団結がんばろう」で締めくくられました。

会場では、震災と豪雨災害に見舞われた能登半島への支援カンパも行われ、92,444円のご支援をいただきました。

第96回兵庫県メーデー神戸中央大会

戦後・被爆80年 次代につなぐ平和の特別決議

2025年、戦後・被爆80年となる。

80年前、第二次世界大戦により、世界で約8千万人が犠牲となった。人類史上、初めて広島に、そして長崎に投下された原子爆弾は計り知れない破壊と苦しみをもたらした。

今なお、戦禍の傷跡や痛みは癒えていない。私たちは、不戦の誓いのもと、働く仲間が連帯し、平和・人権・民主主義を守る歩みを進めている。

ウクライナ、パレスチナ、ミャンマーなど、世界では戦争・紛争や人権侵害が起きている。なんら罪のない多くの人々は苦しみ、依然として核兵器の脅威は存在している。戦禍の記憶を風化させることなく、武力ではなく、対話と信頼の関係構築を通じ、戦争や核兵器のない世界、持続可能な世界の実現に向けて、私たちは、不断の努力を続けなければならない。

昨年、被爆者の立場で「核兵器なき世界」を訴え続けた日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことは、「対立と分断」を深める世界への警鐘である。

「一発の原子爆弾は私の身内5人を無残な姿に変え一挙に命を奪いました。その時目にした人々の死にざまは、人間の死とはとても言えないありさまでした。たとえ戦争といえどもこんな殺し方、こんな傷つけ方をしてはいけなと、私はそのとき、強く感じたものであります。」

これは、日本被団協・代表委員の田中熙巳（たなか てるみ）さんの言葉である。

戦争は最大の人権侵害である。今を生きる私たちの責任として、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代に継承していかなければならない。

戦後・被爆80年の今、世界がより良い未来（あした）へと向かうための行動と平和の誓いを新たに、次代につなぐ平和の決議とする。

2025年4月26日

第96回兵庫県メーデー神戸中央大会

人権教育ひょうご 第28回総会

と き 2025年5月24日（土）13:30 開会[13:00 受付]

と ころ ラッセホール5階 サンフラワー

いっそうの人権文化の創造をめざして

国連は、1995年から2004年を「人権教育のための国連10年」とし、人権教育の世界的規模での拡がりをめざしてきました。

わたしたち人権教育ひょうご（「人権教育のための国連10年」兵庫県推進連絡協議会）は、兵庫県に『「人権教育のための国連10年」に関する兵庫県行動計画提言』（99年6月）を提出し、県内行動計画の策定をもとめつつ、人権教育・施策の拡張をめざしてきました。

この間、「国連10年」は、その期限を終えました。しかし国連は、その総括にもとづき、2005年より「人権教育のための世界プログラム」を採択し、とりくみが続いています。

人権教育ひょうごは、引き続き、いっそうの人権文化の創造をめざしてまいりたいと考えております。

この兵庫の地で、`普遍的な人権文化の構築。をめざして、ともに行動しましょう！

第1部 総会

第2部 講演会

テーマ

「悪意のない差別

マイクロアグレッションと社会のあり方」

講師：栗本 敦子さん

（Facilitator's LABOくえふらぼ）

※マイクロアグレッション

別名「小さな（マイクロ）攻撃性（アグレッション）」、人と関わる
とき、相手を差別したり、傷つけたりする意図はないのに、相手の心
にちょっとした影をおとすような言動や行動をしてしまうこと。



★主 催★ 人権教育ひょうご（「人権教育のための国連10年」兵庫県推進連絡協議会）

（事務局団体） 自治労兵庫本部 部属解放同盟兵庫連合会 ひょうご部属解放・人権研究所
兵庫高等学校教職員組合（兵高教） 兵庫県教職員組合

《連絡先》人権教育ひょうご事務局 兵庫県教職員組合 教文部

〈TEL〉078-241-2345 〈MAIL〉hyoukyousou-kyoubun@htu.or.jp

兵高教第39回定期大会

6月28日（土）10:30～16:30（受付10:00～）

神戸市教育会館 501号室

※各支部・専門部の代議員の選出をお願いします。

しゅんいち
みずおか俊一

教育、くらし、平和
希望ある未来を子どもたちに！



兵高教は、子どもたちの学びと教職員の生活に関わる情報を、迅速かつ正確にお届けします。